

## ボーリング柱状図

調査名 主要地方道鞆松永線道路改良工事に係る休憩施設移設その他工事に伴う地質調査委託

事業名または工事名

調査目的及び調査対象 建築構造物基礎

ボーリング名	No.B1	調査位置	広島県福山市鞆町後地1521ほか										北緯	34°22'53.2498"									
発注機関	広島県土木建築局営繕課										調査期間	令和5年1月16日～令和5年1月17日		東経	133°22'38.2183"								
調査業者名	管技術者 理										現場作業責任者	コア鑑定者 ボーリング責任者											
孔口標高	T.P. 3.85 m	角度	180° 上 下 0° 90° 0°	方位	北 0° 西 180° 南 90° 東 0°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 傾斜 90° 0°	使用機種	試錐機	東邦D-0													
総削孔長	8.02 m							エンジン	ヤンマーNFD12	ポンプ	東邦BG-3C												
標尺	標高	層厚	深度	現場土質名(模様)	地盤材料の工学的分類	色相	相対密	記	孔内水位m	標準貫入試験										原位置試験	試料採取	室内試験	削孔月日
m	m	m	m			調度	相度		測定月日	N	深度m	100mmごとの打撃回数	打撃回数/貫入量	深度-N値	深度m	試料番号	試料名及U結果	深度m	試料番号	採取方法			
1	2.15	1.70	1.70	盛土・礫混じり粘土質砂 (SCsG)	暗黄灰			最高部3cmはコンクリート以下、φ10～50mmの礫を混入する粘土質砂で極めて不均質である。含水量極めて多い。	1.15	1.15	1.70	1.40	2	310	○		1.15		○	土密含水沈降LLPL	1-3		
2	0.85	1.30	3.00	シルト混じり細砂 (S-Cs)	茶褐	rd3		砂の粒径は均一で、比較的淘汰が進んでいる。極少量の粘性土分を含み、φ10～30mmの礫が点在する。含水量は少ない。	1.46	2.15	3	4	3	10	2.20 E=118MN/m²		1.46			2.15	1-2		
3	0.55	0.30	3.30	○○○○砂礫 (SG-Cs)	黄灰	rd3		含水量極めて多い。前壊性を有す。	2.45	3.15	9	7	4	20	3.00 孔内観察試験		2.45			3.15	1-2		
4	0.05	0.50	3.80	●●●●礫混じり粗砂 (SG-Cs)	青灰			φ10～30mmの礫を混入する。含水量極めて多い。	2.88	20	3.45	4	300	300			3.45			土密含水沈降			
5	-1.45	1.50	5.30	流紋岩・軟岩	淡黄灰	L		石英と長石の斑晶が目立つ溶結凝灰岩で、真砂状を呈する。粒子は硬く、東真砂状を呈する。溶結による葉理や流理はほとんど認められない。	214.3	4.00	50	70	50	70									
6	-2.05	0.60	5.90	流紋岩・中硬岩	黄灰	L		岩片状～短柱状コアとなる。岩片はやや脆く、指で碎ける部分もある。	136.4	5.05	30	20	10	50									
7	-2.45	0.40	6.30	流紋岩・軟岩	淡黄灰	L		真砂状。非常に縦まつていて。	93.8	6.05	17	33	60	50									
8	-3.25	0.80	7.10	流紋岩・中硬岩	黄灰	L		岩片状～短柱状コアとして採取される。岩片は硬く、叩くと半濁音を発する。コア表面に脱気孔が認められる。	187.5	7.05	50	80	50	80									
9	-3.65	0.40	7.50	流紋岩・軟岩	淡黄灰	L		真砂状。非常に縦まつていて。	7.13	8.00	50	20	50	20									
10	-4.17	0.52	8.02	流紋岩・中硬岩	黄褐灰	L		極めて硬く、叩くと鈍い金属音を発する。長石が変質し、緑色を帯びる。	8.02														

株式会社タマルコンサルタント